

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	第5回 No. 5 駅周辺まちづくり協議会
開 催 日 時	令和8年8月22日(土) 9時30分～11時00分
開 催 場 所	武蔵村山市民会館さくらホール 展示室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：藤野委員長、西原副委員長、安部委員、石川委員、数馬委員、豊泉委員、長谷川委員、矢部委員、東京都立武蔵村山高等学校 オブザーバー2名(武蔵村山高等学校生徒会2名) 欠席者：遠田委員、川島委員、梶原委員 事務局：沿線まちづくり課長、同課計画係長、同係主任、同係係員、同課調整係長 開催運営支援：株式会社フジヤマ
報 告 事 項	①前回の振り返り ②提言書(素案)
議 題	「提言書(素案)」に係る意見交換
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	提言書骨子(素案)をたたき台に、掲載内容について意見交換を行った。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。) 〔凡例〕 ◎委員長 ○委員 ●事務局(市) ■ファシリテーター(株フジヤマ)	【報告事項①】 ■ 資料1に基づき報告 【報告事項②】 ■ 資料2に基づき報告 【議題】「提言書(素案)」に係る意見交換 ○ 17ページの送迎保育ステーションについて、武蔵村山市が他市の施設を視察したことはあるか。 送迎保育ステーションは、保護者にとっては便利な施設だと思うが、子どもにとってどうなのか、保護者と保育士との信頼関係をどのように築いているのかが気になっている。 通常の保育園でも、信頼関係を築くには時間がかかる。一時的な預かり場所で子どもを預け、バスで移動して先生のところへ向かうという流れの中で、信頼関係をどのように築いているのか。 ● まず他市の施設について、市が視察に赴いてはいない。記載の意図は、市の事業として施設を運営するのではなく、民間事業者によるこうした施設の立地を誘導・促進したいという趣旨である。事例についてはインターネットによる情報収集や電話で問い合わせを行っている。 送迎保育ステーションが立地している町田市や流山市に電話で問い合わせをした際、特段大きな問題は起きていないという話は

聞いているが、保育士とのトラブル等の具体的な内容はヒアリングできていない。

- 13ページの地域資源について、禅昌寺を推薦したい。

現状、参詣者の檀家に利用が限られているが、禅昌寺が持つポテンシャルを檀家以外の人にも開かれた形で生かせないか。この地区では、地域外の人が訪れるような取組があまり行われていないので、座禅会や写経会等、インバウンドを含む地域外の人も参加できるようなPR活動を行えば、地域資源、観光資源になってくる。

- 25ページの視点2に、神社仏閣や里山の歴史の積極的な活用やPR活動として、「地域内に十分知られていない歴史文化資源を地域一体で発信していくことが望まれる」という記載をしている。

市としては、禅昌寺や他の神社等にはまだ具体的な話はできていないが、こうした話があったことを庁内で共有し、今後のまちづくりにおける観光資源の一つとして検討したい。

- 3つのゾーンに分けて土地利用を整理し、商業を集積する方向に賛成である。

N o. 5 駅周辺は、これまでデータ上では人口減少の傾向にある地区として捉えられていたが、新たな住宅地の形成という新しい動きも出ている。

住宅が増えている一方で商業施設がほとんどなく、コンビニエンスストアが少しある程度である。スーパーマーケットや飲食店など、N o. 5 駅周辺の商業環境の充実を推進していただきたい。

- 本協議会の前段で立地適正化計画を策定しており、今回協議いただいている拠点形成ゾーンを都市機能誘導区域として、商業機能等を集積していく枠組みとしている。

新青梅街道を歩いても車で通っても、店が少ないと感じると思う。既存駅でも、上北台にはスーパーやファーストフード店、南には大型商業施設があるなど、駅整備後にまちができてきている。

一方、周りに何もない駅舎となってしまうと、生活に必要な機能が不足する。N o. 5 駅周辺も商業施設が全くないわけではないが乏しい状態であり、地権者や市民に、こうした意見があったことを広めながら、まちの成熟を図っていきたい。

- 豊泉委員からは、以前の協議会で具体的な店舗名での提案があった。また、武蔵村山高校の生徒からも、皆で集まってゆっくり食事ができるファミリーレストラン等が欲しいという意見があった。

具体的な名称や業態は提言書には書けないが、そうしたものを示唆する文章案としている。十分かどうか、改めて確認いただきたい。

- 武蔵村山には、昔からある小型の良い店が多い。そうした店がこの地域の良さでもあるため、大型店ができた場合、既存の小型店をやっている人たちを助ける視点を考えていく必要があるのではないかな。

八王子ではネットで地域の評価が高い店の情報発信を行っている。また、他市では、小規模店の情報まで冊子にまとめて配布している例もある。そうした形で、地域の店を分かりやすく紹介す

る取組ができると良い。

- ローカル店やフリーペーパーについて、本市では本年４月に広報・プロモーション課が新設され、どのような情報を発信するか検討している。本日の意見も全庁的に伝えたい。行政は特定の店の斡旋ができないため、観光まちづくり協会や商工会等を介してうまく広報できないか検討している。

市としても、大規模な複合商業施設の立地は想定しておらず、Ｎｏ．５駅の誘導施設としては５００平方メートル以上１，０００平方メートル未満の食料品店等を想定している。

- 鉄道に乗る生活が定着していないため、武蔵村山市に住んでいる方、特にＮｏ．４駅やＮｏ．５駅周辺の人が駅に行くためのアクセスが重要である。２４ページの図のとおり、岸や中原、三ツ木からモノレール駅までは距離があり、バスではなくモノレールを利用してもらう方法を検討する必要がある。

一方、市外からどうやってモノレールで武蔵村山に来てもらうかも重要である。整備された遊歩道を歩いて地域資源を訪れ、大型商業施設に立ち寄り、またモノレールで立川に帰るといった回遊の仕組みが考えられると良い。

提言書内であまり出てこなかったのが高校生の視点である。高校野球やサッカーなど若い世代が活動すればまちが盛り上がる。安全に通学してもらい、ダンスなど学校ごとの特色ある活動を行う場所や、Ｗｉ－Ｆｉが使える場所ができると良い。また、連日災害に関するニュースが報道されているため、新駅が災害時の一時的な避難場所として活用できると良い。

これらの実現にあたっては、市民の協力を得るため、起業したい若い市民等に対し、モノレール沿線で何かやりませんかというメッセージを発信すると良い。商工会では、起業時に利用できる東京都の補助制度を案内している。市民、高校生、幼稚園なども含め、やりたい人が手を挙げられる窓口を市がつくると、より多くの人がモノレールに関わると思う。

- 市だけでは実現が困難であることが大きな課題であり、本市のまちづくり方針でも「協働のまちづくり」を掲げている。市民、事業者、市の三者が一体となったまちづくりが必要であるため、ありがたい意見である。

- 提言書に記載されている活用方法が具体的にになれば、武蔵村山市全体も盛り上がる。今はまだイメージができないが、モノレールを使って市内のいろいろな場所へ行けるようになれば、市内の行き来が楽しくなりそうである。

- 前回、初心者が参加できるスポーツプログラムを増やしてはどうかと発言したが、もう一つ、シニア向けのプログラムも充実させてほしい。

市のスポーツ都市宣言は素晴らしく、大賛成である。それを踏まえ、乳幼児から高齢者まで皆ができるスポーツを考えるべきである。シニアには健康な人もいれば身体が不自由になっている人もいるため、健康保険料の削減も含め、フレイル予防の観点から、スポーツというより健康管理と運動を組み合わせた仕組みが必要である。

総合体育館だけではなく、地区会館や自宅でもできるプログラムをつくると、シニアにとって良いのではないかと。

市の健康関連プログラムは、自分に合った運動ができ、非常に

良い。これがもっと身近に、定期的でなく自由に参加できるようになると良い。

- 市内の地区会館でも体操や太極拳など様々なプログラムがあるが、まだ市民への周知が足りていないと感じた。庁内横断的に意見交換する際に、こういった意見も伝えたい。

- 里山民家や総合体育館は駅から少し離れているため、カフェとして活用する提案は、そこだけを目指して出かけるには物足りなさがある。

先ほどの安部委員の意見にもあったように、里山民家を盛り上げるための事業誘致や総合体育館を盛り上げるための事業誘致ができるとう良い。

- 前回、里山民家の活用について意見をいただいたため、里山民家の指定管理者である狭山丘陵パートナーズ、観光まちづくり協会、市の産業観光課、沿線まちづくり課の4者で意見交換を行った。里山民家までの経路が分かりにくい、建物内で飲食ができないといった課題があり、連携して取り組もうという話をした。まず里山民家の存在を知ってもらい、人の流れができれば商業の活性化につながると考えられる。参加型・体験型イベントの取組など、活用の方法を様々な角度から意見交換した。

提言書ができた際にも改めて意見交換することとしているため、本日の意見も管理者へ伝えたい。

- 提言書の中で、提言の要旨として3つ掲げているところをもっと大々的にアピールすると良い。最終的に見開き2ページ程度で全体像をまとめると思うが、視覚的に分かりやすく、委員以外の人が見ても興味を持てる作り方にすると良い。

今後、この提言を踏まえて市が具体的な構想を検討する際、土地利用・景観・交通ネットワークなど要点ごとに、K P Iを念頭に置いた事業手法を取り入れると、より精度の高いまちづくりに繋がる。

また、他駅についてもそれぞれ提言書をまとめると思うが、これを次の段階へレベルアップする中で、庁内横断的なプロジェクトチームを立ち上げることで、より具体的なまちづくりのイメージにつなげてほしい。また、その段階でも市民に情報提供いただけるとありがたい。

- 1点目のアピールの仕方について、見開きでまとめる予定である。具体的にこういう見せ方が良いという工夫があれば、手書きでも構わないのでイメージを示していただけるとありがたい。

2点目のK P Iについては、まちづくりを実効的に進めるため、今後は沿線方針を基に地区計画の枠組みを設け、その後、全体的なまちづくり方針等も変更していく。まちづくりはK P Iで示すのが難しい面もあるが、その中で数値化できるものは数値化しながら深度化を図りたい。

- 残堀川沿いの自転車道は、武蔵村山高校の生徒も利用しているため、再整備が実現すると良い。

28ページの三ツ木地区会館の再整備も良い。放課後の居場所づくりは大切であり、飲食スペースがあれば生徒も利用すると思う。

市の施設整備には様々な調整が必要で大変だとわかっているが、協力できることは協力したいと考えている。

○ 21ページの生活道路等の交通環境の改善について、残堀川沿いや新青梅街道の自転車通行空間が拡幅されると通りやすくて良い。一方で、工事により通学路が通れなくなり大回りが必要になると、通学に時間がかかってしまうため、工事中でも通れる道を確保してもらえるとありがたい。

20ページの外観の統一についても興味がある。京都のように、和風の茶色で統一するようなイメージなのか。

○ たくさんの協議の結果、ここまで来たのだと感じた。皆さんと共通の思いである。

● 新青梅街道の工事は東京都が行うが、基本的に現在の歩道幅員に相当する通行は確保されると聞いている。現在、No. 3駅周辺では樹木の撤去や下水工事が行われているが、通行を確保した上で施工しており、No. 5駅周辺も同様のイメージである。

今後、車道拡幅や中央分離帯の工事が入るため、まっすぐ通行できない箇所が一時的に出る可能性はあるが、通行できなくなることはないと言っているため、通学等には利用できる。

外観について、京都のようなイメージという話があったが、具体的な色彩や意匠はまだ決定していない。実施には地域住民の協力も必要であり、難しい面もある。今後、まちづくりの主演となる高校生や若い世代が、「No. 5駅はこういう街並みだから来てみたい」と思えるような、人が立ち寄れる落ち着いた雰囲気になればと考えている。

○ スーパーがあること、交流機能があること、人が集まること、公共交通が便利になることは、どの駅でも必要であり当然のことである。No. 5駅には武蔵村山高校、総合体育館、里山民家など様々な地域資源があるため、そこをもっと活用できるようにアピールしたほうが良い。公共交通や道路整備も大事だが、近くにある資源を効果的に活用し、外からの人も立ち寄れるNo. 5駅という点を、全体として重視する形にしたほうが良いと思った。

◎ 皆さんからいただいた意見が、かなりまとまってきた。

今回はNo. 5駅だが、今後は他の駅でも検討が続いていく。工事等も始まるため、今回の範囲だけでなく、今後まちの中を歩いた際に気づいたこと、こうしたほうが良いということがあれば、ぜひ市役所に連絡いただきたい。

【その他】

● 次回は9月19日を候補日として調整する。場所は市役所4階402学習室ABで開催する予定である。

本日の結果は「開催概要」としてHPに掲載し、委員の皆様には事前にメールで通知する。

お手元にご意見提出用紙を配布しているため、言い残したこと等があれば記載していただくか、メールでお知らせいただきたい。

会議の公開・ 非公開の別	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 	傍聴者： 2 人
-----------------	---	----------

会議録の開示・ 非開示の別	☒ 開示 ☐ 一部開示(根拠法令等：) ☐ 非開示(根拠法令等：)
	庶務担当課 都市整備部 沿線まちづくり課 (内線：279)

(日本産業規格A列4番)